

乾燥BCGワクチンの懸濁方法

使用方法の詳細は、電子添文をご参照ください。

1

BCGアンプルの確認

- ・ アンプル内の乾燥BCGワクチンの乾燥状態を確認。
- ・ 通常の乾燥体は、直径7mmほどの円盤状。
- ・ 万一吸湿している場合は、使用しない。

2

BCGアンプルにキズをつける

アンプル頸部全周にアンプルカットでキズをつける。



3

キズの部分をアルコール綿で清拭し、十分に乾燥させる

乾燥が不十分だとアルコールが混入し、均一な懸濁液ができなくなる。
(裏面「懸濁できない場合」参照)



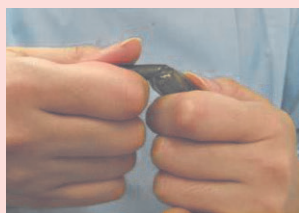
4

BCGアンプルを開口する

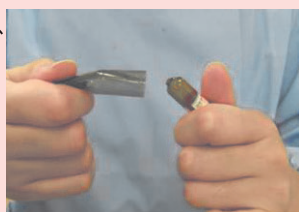
- (1) 添付の黒ポリ袋でアンプル全体を包む。



- (2) 黒ポリ袋をねじって、中の空気を追い出す。



- (3) キズをつけた部分から、アンプルを折る。



5

懸濁用生理食塩液アンプルを開口する

- (1) アンプルを軽く振り、上に残っている溶液を下に落とし、頸の部分をアルコール綿で清拭し、十分乾燥させる。
- (2) カットマークを上にして、正しく反対側に折って開口する。



6

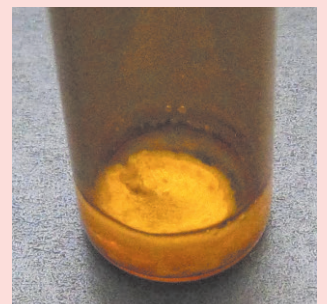
添付のスピイトで生理食塩液を全量吸い上げ、内壁に沿ってゆっくりと注入

注射器は絶対に使用しないこと。



2～3分間静置する。

乾燥体が崩れていたり、生理食塩液を勢いよく注入したりした場合は静置時間を延長する。
(裏面「懸濁しづらくなる場合」参照)



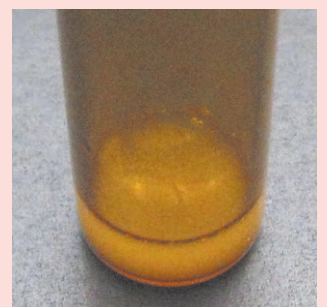
7

均等に十分湿らせた後、静かにアンプルを振る

8

懸濁液の完成

80mg/mLの濃度のワクチンが得られる。



懸濁しづらくなる場合

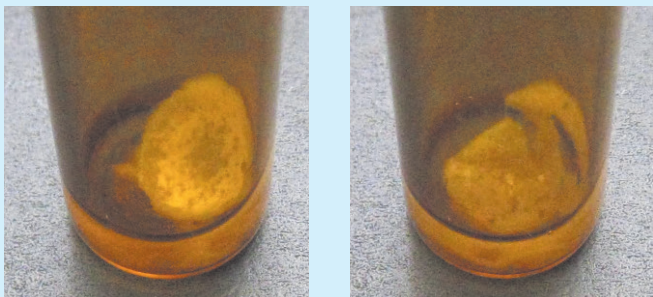
■乾燥体が崩れている

生理食塩液が染み込むのに時間がかかる。

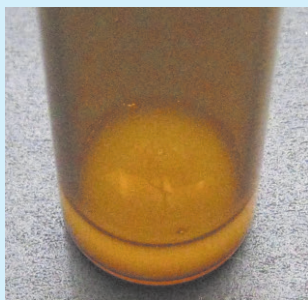


■勢いよく生理食塩液を注入

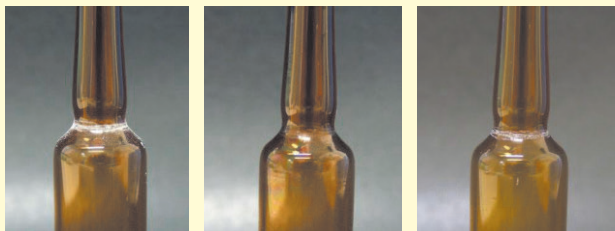
管壁に乾燥体が付着してしまう可能性がある。



静置時間を延長すれば
いずれも懸濁すること
ができる。
(品質に問題はない。)



アルコール清拭後の乾燥の目安



キズを付けた直後 清拭直後 乾燥後

- ・ 清拭直後はアルコールでキズが見えにくくなる。
- ・ 乾燥すると白いキズが見えるようになる。

製造販売元



日本ビーシージー製造株式会社

〒204-0022 東京都清瀬市松山三丁目1番5号

問い合わせ先 カスタマーセンター

〒112-0012 東京都文京区大塚一丁目5番21号

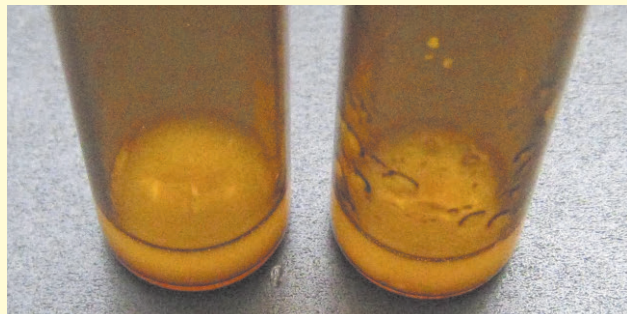
TEL03-5395-5590

2023年5月作成 PIDB011501-BMMYE

懸濁できない場合

■ごく微量でもアルコールがBCGアンプル内に混入し、乾燥体に付着した場合

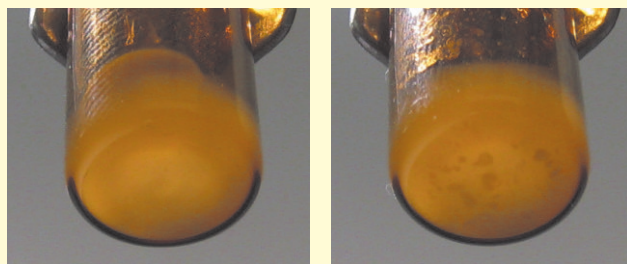
アルコールが付着した乾燥体を懸濁させると、粒状になったBCGが管壁に残る。



正常

アルコール付着

アルコールが付着した場合、底面からも粒状になったBCGが確認できる。



正常

アルコール付着

■アルコールが乾燥する前に開口した場合

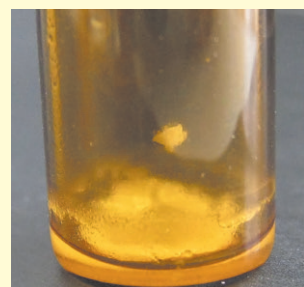
清拭後、乾燥する前にBCGアンプルを開口した場合、アルコールがアンプル内に引き込まれる。



アルコール混入

■アルコール綿を巻きつけて開口した場合

しっかりと絞ったアルコール綿であっても、巻きつけた状態でBCGアンプルを開口すると、アルコールがアンプル内に混入する。



アルコール混入